

H-8 熊野古道伊勢路

【山行日】2022年4月8日（金）

【CL】3533 【参加者】421 1935 2131 2196 2495 2568 2784 2752 2830 2932 3008 3142 3173
3191 3240 3252 3426 3476 3499 3524 3613

【コース】加田 9:25…一石峠・平方峠…古里 10:25…サボ鼻道展望台 10:40…道瀬 11:15…
三浦峠 12:30…13:40 始神さくら広場 14:00

少し肌寒さを感じる朝、マイクロバスに乗り名古屋駅を出発。伊勢自動車道を走る車窓から見られた美しい山容は掘坂山辺りか。濃淡の緑の山に淡いピンク色の山桜が散在し、その見事な彩りに車内で感嘆の声が上がった。

加田でマイクロバスを降りる頃には日差しに強さを感じるほどの陽気だ。

この日は、海岸線沿いを走る JR 紀勢本線を縫うように踏切を 3 回渡り、静かな海沿いを歩いたり、峠道に入ったりを繰り返すコースを巡る。

ウグイスの声を耳に一石峠の入り口へ向かう。踏切を渡ると、お地蔵様が笑顔で迎えてくれる。峠と言っても歩きやすい平坦な道が多く距離も短い。木陰の登山道の傍らにはワラビ等のシダ植物が茂りマムシグサも多く見られた。

一石峠、平方峠を越えて行くと海が見える道に出、夏みかんの無人販売所を横目で見ながら古里のまちへ抜け、古里海水浴場へ出てトイレ休憩。

踏切を渡り再び林道へ入り、サボ鼻道を行くと紀伊の松島を一望できるサボ鼻道展望台に着く。絶景を堪能し、崖が崩れてきそうな遊歩道を辿り、下ったところに祀られている若宮神社で手を合わせて無事を願った。



少し早い

が、海岸線が広がる場所に皆、並んで昼食。熊野灘に浮かぶ島々と遥か彼方の水平線を眺めながらゆったりとした時を過ごした。

お腹を満たして再始動。海岸を離れ道路を歩くと、この日一番距離が長い三浦峠入口の案内板がある。整備された登山道をジグザグに緩やかに登っていくと切通しになったところに三浦峠と記されている。峠を越えてなだらかな道を下ると、総檜作りの熊ヶ谷橋に着く。世界遺産指定を受け総工費 2,200 万円掛けて復元された趣ある立派な橋だ。

三つの峠越えを終え舗装道路を歩いて踏切を渡り、ゴール地点の始神さくら広場へ向かう。途中、桜の花びらが風に吹かれて惜しげもなく舞い散る様子が見られ、美しくも儂い様に季節の移ろいを感じた。

この上ない好天に恵まれた春の一日。海岸から聞こえる波の音に癒され、色とりどりの花に心満たされ会話も弾み、参加者の皆さん満足されたことでしょう。(3191)

